

遠野の民話から



★おすすめ本リスト★

『柳田国男遠野物語』 石井正己／著 NHK出版 2016年
百話を超える伝承が収められた『遠野物語』。昔話としての印象が強い一方、そこには現実世界を生きる人々の「負の遺産」が写されていた。自然や神、人間の死について、当時の日本人は何を感じて生きてきたのか。古の記憶をたどりつつ、現代人の未来について考える。

『口語訳 遠野物語』 柳田国男／著 河出書房新社 2013年
神や妖怪、家々の伝承など、遠野の地で語り伝えられてきた不思議な言い伝えが数多く採集された『遠野物語』。日本民俗学の代名詞と言われる柳田国男の代表作を、わかりやすい図版や口語訳とともに紹介する。

『図説遠野物語の世界』 石井正己／著 河出書房新社 2017年
『遠野物語』はどのようにして生まれたのか。遠野の地で語り継がれ、柳田国男が記録にしたための河童や座敷わらしなどの不思議な伝承を豊富な写真・資料をもとに紹介する。『遠野物語』の成立やその世界観がよくわかる一冊。

『柳田国男』 鶴見太郎／著 ミネルヴァ書房 2019年
『遠野物語』をはじめとした地方に伝わる民間伝承に注目し、日本の民俗学の創始者と呼ばれる柳田国男。その足跡を追うとともに、人物像にも迫る。

『死と向き合う言葉』 呉智英・加藤博子／著 ベストセラーズ 2021年
人々に平等に訪れる「死」について、哲学者・文学者といった先人たちはどのように考えてきたのか。古今東西の名著を紐解くとともに、死の本質や悔いなく生きるための方法を評論家・文学者である著者2人が語り合う。

『この世とあの世〈講演集〉』 大法輪閣編集部／編 大法輪閣 2020年
私たちは死後、どこへいくのか。11名の研究者や僧侶が、各々の宗教の視点で浄土・天国・黄泉の国といった死生観を解説。今を充実して生きるための「来世」講座。

『極上の死生観』 齋藤孝／著 NHK出版 2020年
「人生100年時代」を迎えつつある中、古今東西の賢者たちの死生観をもとに、いつか訪れる「死」を受け入れる方法を模索する。後半生を悔いなくするために、「生きること」の意味を考える。

【児童書】

『遠野物語』 柳田國男／原作・柏葉幸子／編著 偕成社 2016年
遠野で幼少期を過ごした編著者が、『遠野物語』の中で特に伝えたい作品をまとめた一冊。赤い河童をナビゲーターに、12の不思議な言い伝えを紹介する。

『生命科学の大研究』 田沼靖一／著 PHP研究所 2012年
生命とは何かという問いからスタートし、生命科学の最先端の技術や今後の可能性を紹介するとともに、生命倫理の面で抱えている課題について考える。

★その他おすすめ本リスト★

- 『関西弁で読む遠野物語』 柳田国男／著・畑中章宏／訳 エクスナレッジ 2020年
『お葬式の言葉と風習』 高橋繁行／著 創元社 2020年
『柳田國男』 柳田國男／著 平凡社 2019年
『図説地図とあらすじでわかる！遠野物語』 志村有弘／監修 青春出版社 2013年
『『遠野物語』へのご招待』 石井正己／著 三弥井書店 2010年
『柳田国男入門』 鶴見太郎／著 角川学芸出版 2008年
『柳田国男を読み直す』 岩本由輝／著 世界思想社（京都） 1990年
『誰も教えてくれなかった死の哲学入門』 内藤理恵子／著 日本実業出版社 2019年
『死の教科書』 五木寛之／著 宝島社 2019年
『持続可能な医療 超高齢化時代の科学・公共性・死生観』 広井良典／著 筑摩書房 2018年
『死ねば宇宙の塵芥』 曾野綾子・近藤誠／著 宝島社 2018年
『医者死生観』 梶葉子／著 朝日新聞出版 2018年
『「いのち」はいかに語りうるか？』 日本学術協力財団／編 日本学術協力財団 2018年
『死者が立ち止まる場所』 マリー・ムツキ・モケット／著・高月園子／訳 晶文社 2016年
『死を見つめ、生を開く』 片山恭一／著 NHK出版 2013年
『生活仏教の民族誌』 佐々木宏幹／著 春秋社 2012年
『ヒトはどうして死ぬのか』 田沼靖一／著 幻冬舎 2010年
『17歳からの死生観』 山折哲雄／著 毎日新聞社 2010年
『死の民俗学』 山折哲雄／著 岩波書店 2002年
『60代からもっと人生を楽しむ人、ムダに生きる人』 『PHP』編集部／編 PHP研究所 2016年
『14歳からわかる生命倫理』 雨宮処凛／著 河出書房新社 2014年
『遠野物語の国へ』 平野直／著・つぼのひでお／画 講談社 1997年